

- 問1 飛鳥時代、聖徳太子によって607年に派遣され、隋の皇帝である煬帝に謁見したとされる代表的な人物は誰ですか。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
1. 中臣鎌足 2. 小野妹子 3. 蘇我馬子 4. 鑑真
- 問2 日本最古級の橋とされる京都府宇治市の宇治橋には、ある人物が建立に関わったという伝承があります。大化の改新から即位に至る一連の政治改革を行ったこの人物の、政治の目的や動向を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 京都府公立入試 類似)
1. 摂政として推古天皇を助け、冠位十二階や十七条の憲法を制定することで、家柄にとられない人材登用と役人の心構えを説いた。 2. 隠岐から脱出して鎌倉幕府を滅ぼした後、建武の新政を開始して、公家が政治の中心となる仕組みを復活させようとした。 3. 中大兄皇子として政治を主導し、土地と人民を国家が直接支配する公地公民などの改革を進め、天皇への権力集中を図った。 4. 壬申の乱で勝利した後に即位し、大規模な都である藤原京の造営や、律令制度の完成に向けた準備を本格化させた。
- 問3 日本の税の歴史をたどる資料において、その出発点として紹介されるのが701年に完成した「大宝律令」です。この法令によって定められた、都での労役の代わりの布を納める「庸」や、各地の特産物を納める「調」といった税制度について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2020年 山口県公立入試 類似)
1. 「庸」は、収穫した稲の一定割合を地方の役所に納めるものであった 2. 税を納めるために都へ向かう際の食料や旅費は、すべて国から支給されていた 3. 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた 4. 「調」は、土地の面積に応じて全ての耕作者に一律で課せられる税であった
- 問4 天武天皇の時期に作成が開始された「庚午年籍」などの戸籍は、中央集権体制を築く上でどのような目的で作成されましたか。その目的として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 香川県公立入試 類似)
1. 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にするための基礎とするため 2. 地方の豪族に対して土地の私有権を認め、その忠誠を確保するため 3. 仏教による国家の安定を目指し、全国の寺院と僧侶の数を管理するため 4. 諸外国との交易を円滑にするため、都市部の商人層の構成を調査するため
- 問5 飛鳥文化を象徴する法隆寺に関する記述として、歴史的背景を含めて説明したものとして最も適切なものを選びなさい。 (2024年 三重県公立入試 類似)
1. 聖武天皇が国ごとに建立を命じた国分寺の総本山として、国家の保護を受けて発展した。 2. 奥州藤原氏によって東北地方に建てられ、浄土信仰に基づく金色の建築様式が特徴である。 3. 最澄が比叡山に開いた天台宗の拠点であり、平安時代以降の仏教の発展に大きく寄与した。 4. 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。
- 問6 7世紀前半の東アジアでは、中国を統一した唐が、朝鮮半島の北部に位置する国を攻撃するなど、軍事的な緊張が高まっていました。このような国際情勢の変化は、日本において強力な中央集権国家を目指す大化の改新が起こる大きな要因となりました。このとき、唐の攻撃を受けた朝鮮半島北部の国名を答えなさい。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 渤海 2. 新羅 3. 高句麗 4. 百濟
- 問7 飛鳥時代、聖徳太子が小野妹子を中国の隋に派遣した歴史的背景と目的の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
1. 菅原道真の提言に基づき、形式的な外交を廃止して国内の政治改革に専念するため。 2. 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。 3. 阿倍仲麻呂を隋の皇帝に紹介し、日本の律令制度が完成したことを報告するため。 4. 白村江の戦いでの敗北を受けて、唐や新羅の侵攻に備えた外交交渉を行うため。
- 問8 天智天皇の死後に発生した大規模な後継者争いである壬申の乱に勝利し、即位したのち、天皇を中心とする強力な中央集権国家の体制を整えた人物を次のの中から選びなさい。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
1. 聖武天皇 2. 天武天皇 3. 推古天皇 4. 桓武天皇
- 問9 7世紀の東アジアの情勢について、朝鮮半島の北部に位置する国家が唐から大規模な軍事攻撃を受けたことで、日本（倭）を含む周辺諸国の国際的な緊張が高まった状況を説明した文章があります。この文章の中で、唐の攻撃の対象となり、東アジアの緊張の一因となった国家として正しいものを選びなさい。 (2020年 徳島県公立入試 類似)
1. 加耶（任那） 2. 新羅 3. 百濟 4. 高句麗
- 問10 663年に朝鮮半島で起きた白村江の戦いにおいて、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗北した後、国内で取られた国防対策の説明として最も適切なものを選びなさい。 (2016年 愛媛県公立入試 類似)
1. 外国船の来航を制限するため、長崎の出島のみでオランダや中国との貿易を認めた 2. 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた 3. 博多湾の沿岸に石築地（元寇防壁）を築き、集団戦法を用いる敵の侵入を防いだ 4. 蝦夷（えみし）の抵抗を抑えるために多賀城を築き、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じた
- 問11 飛鳥文化における寺院建立の背景について、当時の政治状況と関連付けて説明したものとして最も適切なものはどれか。 (2017年 岐阜県公立入試 類似)
1. 遣唐使によってもたらされた最新の浄土信仰が民衆の間に広まり、現世利益を求めて建立が急増した。 2. 国ごとに国分寺や国分尼寺を建立することを命じる詔が出され、地方豪族が競って寺を建てた。 3. 源平の争乱によって焼失した旧来の寺院を再建するため、重源らが東大寺の勧進を行ったことで広まった。 4. 聖徳太子や蘇我氏が、仏教を国家統治の柱として導入し、自らの権威や先進性を国内外に示すために建立した。
- 問12 日本の歴史における時代区分と出来事の前後関係について説明した文として、最も適当なものを次のうちから1つ選びなさい。 (2021年 宮崎県公立入試 類似)
1. 鎌倉時代に平清盛が幕府を開き、その後、安土桃山時代にフビライ・ハンによる元寇が起こった。 2. 飛鳥時代にフビライ・ハンが来來し、その後、室町時代に平清盛が太政大臣に就任した。 3. 奈良時代に豊臣秀吉が太閤検地を行い、その後、安土桃山時代に平清盛が政権を握った。 4. 平安時代末期に平清盛が日宋貿易を推進し、その後、鎌倉時代にフビライ・ハン率いる元が日本へ押し寄せた。
- 問13 645年に起こった政治改革において、中臣鎌足（藤原鎌足）らとともに、権勢を振るっていた蘇我氏を倒し、後に天智天皇として即位した人物は誰ですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
1. 中大兄皇子 2. 大海人皇子 3. 聖徳太子 4. 足利尊氏

答え合わせ・解説

問1	答え 2 小野妹子	607年に第2回の遣隋使として派遣されたのが小野妹子です。彼は隋の進んだ文化や政治制度を日本に持ち帰り、後の冠位十二階や十七条の憲法といった国家体制の整備に大きく貢献しました。選択肢にある蘇我馬子は当時の有力な豪族、中臣鎌足は後の大化の改新で活躍した人物、鑑真は奈良時代に唐から来日した僧侶であり、時代や役割が異なります。
問2	答え 3 中大兄皇子として政治を主導し、土地と人民を国家が直接支配する公地公民などの改革を進め、天皇への権力集中を図った。	宇治橋の伝承に関連する天智天皇（中大兄皇子）は、唐や新羅といった大陸の強国に対抗するため、国内の権力を一つにまとめる必要がありました。そこで、蘇我氏という有力豪族を打倒し、それまで豪族が私有していた土地や人民を国家のものとする「公地公民」を掲げ、中央集権体制の確立を目指しました。
問3	答え 3 特産物などを都まで運ぶ負担は、税を納める農民自身が負うことになっていた	大宝律令のもとで課せられた「庸」や「調」は、負担者自身が都まで運搬する義務（運脚）を伴っており、農民にとって極めて重い負担となっていました。なお、収穫した稲を納めるのは「租」であり、食料などの旅費も自己負担でした。
問4	答え 1 人民の居住地や氏姓を把握し、税の徴収や徴兵を確実にを行うための基礎とするため	中央集権国家の確立には、国家が直接人民を支配し、労働力や税を徴収する仕組みが不可欠でした。戸籍（庚午年籍）を作成して全国規模で人民を登録することで、公平かつ確実な徴税や徴兵を可能にし、天皇による統治基盤を強化する狙いがありました。
問5	答え 4 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。	法隆寺は7世紀初め、聖徳太子（厩戸皇子）の指導のもとで建立され、日本における初期の仏教興隆を象徴する存在です。他の選択肢は、東大寺（奈良時代・聖武天皇）、中尊寺（平安末期・藤原氏）、延暦寺（平安初期・最澄）に関する説明であり、時代背景や建立の主体が異なります。
問6	答え 3 高句麗	聖徳太子の死後、隋に代わって中国を統一した唐は、領土拡大のために朝鮮半島北部の高句麗へ繰り返し遠征を行いました。この強大な帝国の出現と軍事的圧力は、当時の日本にとって大きな脅威となり、国内の結束を固めて天皇中心の強力な国家体制を整える必要性を認識させました。こうした背景から、中大兄皇子らによって大化の改新が断行されることとなりました。
問7	答え 2 大陸の進んだ制度や仏教文化を直接取り入れ、天皇を中心とした政治制度を整えるため。	聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法を制定し、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を図っていました。遣隋使の派遣は、その改革のモデルとなる中国の高度な政治制度や、国家の精神的支柱としての仏教を学ぶための重要な外交手段でした。選択肢にある菅原道真は遣唐使の停止を提言した人物であり、阿倍仲麻呂は遣唐使として渡った人物なので、時代や背景が異なります。
問8	答え 2 天武天皇	天武天皇は、大海人皇子として壬申の乱で大友皇子（天智天皇の子）を破って即位しました。即位後は、官僚組織の整備や「天皇」という称号、「日本」という国号の使用を開始するなど、律令国家としての基盤となる中央集権的な仕組みを強力に推進しました。
問9	答え 4 高句麗	7世紀、朝鮮半島の北部を支配していた高句麗は、中国を統一した隋やそれに続く唐と激しく対立し、度重なる攻撃を受けました。この強力な唐の動きは朝鮮半島全体や日本にも大きな危機感を与え、日本の国内政治が中央集権化へと向かう国際的な背景となりました。新羅は後に唐と結んで、高句麗や百済を滅ぼすこととなります。
問10	答え 2 九州の大宰府付近に水城を築くとともに、防人を配置して大陸からの侵攻に備えた	白村江の戦いで敗れた日本は、唐や新羅による日本本土への侵攻を恐れ、九州の北部に「水城」や「朝鮮式山城」を築いて防御を固めました。また、北九州の沿岸を守る兵士として、東国出身者を中心とした「防人（さきもり）」を配置しました。石築地は鎌倉時代の元寇、多賀城は平安初期、出島は江戸時代の出来事です。
問11	答え 4 聖徳太子や蘇我氏が、仏教を国家統治の柱として導入し、自らの権威や先進性を国内外に示すために建立した。	当時の政治の中心人物であった聖徳太子や蘇我馬子は、中国や朝鮮半島からの渡来人の技術を活用し、仏教を基盤とした国造りを目指した。寺院の建立は、単なる宗教施設としての役割だけでなく、優れた建築・工芸技術を持つ文明国であることを示す象徴でもあった。
問12	答え 4 平安時代末期に平清盛が日宋貿易を推進し、その後、鎌倉時代にフビライ・ハン率いる元が日本へ押し寄せた。	平清盛は平安時代末期に太政大臣となり、大輪田泊を整備して日宋貿易を進めました。その後、鎌倉時代中期の13世紀後半に、元の皇帝フビライ・ハンによる元寇が起こりました。平清盛の政権獲得（平安時代末期）はフビライ・ハンの侵攻（鎌倉時代）よりも前の出来事となります。
問13	答え 1 中大兄皇子	唐（中国）の制度に習い、天皇を中心とする中央集権国家の確立を目指して行われた改革が大化の改新です。中大兄皇子は蘇我入鹿らを排除することで、有力豪族による政治から、天皇が直接統治する仕組みへと転換を図りました。